

平成31年度 学校関係者評価報告書

学校法人 中部学園
中部楽器技術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人中部学園 中部楽器技術専門学校 学校関係者評価委員会は「平成29年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1 学校関係者評価委員

(1) 委員

乗原 照和 楽器の青ラボ 代表者
岡田 光史 (株) ビュッフエ・クランボン・ジャパン大阪営業所長
杉木 勝彦 株式会社 昭和楽器 代表取締役
松石 奉之 愛知県楽器商組合 組合長

(2) 事務局

角堀 雅信 中部楽器技術専門学校 学校長
早川 昌幸 中部楽器技術専門学校 進路指導部長
中村 大 中部楽器技術専門学校 教務課長

2 平成30年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
A 教育理念 目的 人材育成像	●建学の精神のもと教育理念・目標を定め、音楽業界にとっても有益な人材の育成に努力している。	●教育理念等は、入学式やオリエンテーション等で保護者、学生に周知されているが企業等に対しても広く発信をしていく。
	●業界のニーズに応えるべく努力はしている。時代の変化に取り残されることの無いよう更に努力が必要である。	●業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速することが重要である
	●校訓「一技至誠」が学生・企業に浸透している。	
B 学校運営	●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意思決定の課程も明らかである。	●事業計画に沿った目標意識は、向上しつつあるも、今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。
	●教職員全員が事業計画に対する意識・実行を深めてが必要である。	●コンピューター業界は日進月歩であり、更なるセキュリティの強化が必要になる。
	●情報システム化による効率化を進めるべく努力をしている。	

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
C 教育活動	●教育課程においては、「教育課程編成委員会」、「カリキュラム委員会」を導入後、着実な編成が見られる。	●教育課程の編成においては、多様化する時代の変化に沿ったカリキュラムの編成に取組んでいく。
	●職員の能力開発分野においては、「TCI研修」で学生指導の研修を行っている。また、実技の研修では、業界の専門音楽家等の研修も実施している。	●業界・社会が求める実践力を持った、学生を育成するための研修等を取り入れていく方針である。
D 生徒指導等	●各学年とも年度はじめのオリエンテーション等で生活習慣面の指導や個人毎に年間の目標が設定されている。クラス担任制度も取り入れており、学生の状況把握、適切な指導が取れる体制にある。	●クラス担任制を取り入れておりその利便性を生かし、適切な学生指導を更に心掛ける体制を構築していく。
	●防災体制は構築されている。専門業者による点検や防災訓練等も実施されている。実習の時間も多く救急箱の設置も必要である。	●学生の安全管理を更に強固にしていくために、病院等との提携、医師等との連携等も必要である。
E 学修成果	●企業渉外活動も順次行い、求人受付に加えて企業の情報収集にあたってから、緩急に応じた対応もされており、就職率は高水準を保っている。	●就職率の向上として、就職該当年度を迎える前に学生の就職意識をアンケートで行い、目標や思案中の内容を把握した上での個別面談の実施を継続していく。
	●退学の要因となる学習意欲の低下成績不良に対する策として入学時の早い段階からより細やかな面接指導の導入も必要である。	●就職後の動向、業界関係の情報収集に努めるとともに、それらの情報を分析して今後の進展に役立てていく。
		●面接、面談によるコミュニケーションを増やし、学修意欲の向上を図りながら退学率の軽減に努めていく。
F 生徒・学生支援	●進路・就職支援においては、年間計画により、1年秋から就職支援していく体制が取られている。	●更に充実した就職支援体制にするためには、就職支援室からの一方的なガイダンスだけでなく、クラスター別での座談会などが必要である
	●キャリア教育、職業教育においては、AO入試にエントリーして、早期に入学許可となる生徒に対しては、音楽や楽器、基礎学力確認のための課題を与え入学前に提出させてチェックする体制をつくりあげている。	●入学前教育については、質量ともに学内教職員によるチェック体制の充実を図り、入学時の専門教育にスムーズに入れる工夫が必要である

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
G 教育環境	●法令で定められている教育環境にあり、防災への意識も高く適切である。	●施設設備の老朽化、使用機材等の時代的变化に対応していくことが必要である。
	●学内外の実習施設・海外研修等は十分な教育体制が見受けられる。インターシップ実習においては積極的に企業等へ働きかけている。名古屋経済大学の協力を得て調律のインターンを開始した。	●更なるインターンシップの充実を目指して企業等との連携をしていくを目指す。
H 生徒・学生募集	●入学者の比重の大きい東海、北陸関西地区を中心に顔等学校訪問を行い情報提供に努めている。	●高校の先生、進路指導の責任者に多くの情報を発信し、より多くの高校にアピールする方針である。
	●入学検討者に対しては、「わかりやすく」をモットーに、真実性・明瞭・公平さ等に配慮している。	●本校の教育成果を含めた具体的な学校情報を提示することで学校への理解を促進していく。
I 財務	●中長期的な財務基盤は安定しているが、世間と同じように今後の少子化対策に対する取組は、学園全体で取組んで行く必要がある。	●財務基盤の安定については、18歳人口の減少が確実におとずれる平成30年以降も安定した学生数の確保が不可欠である。
	●予算・収支計画は綿密に計画されている。	●外部監査による、健全な学校運営を維持するとともに、募集の強化、退学率の軽減等を進めて行く。
J 法令等の遵守	●専門学校に関わる各種法令等を遵守し、自己点検・自己評価を行うとともに、それらをの情報を公開している。	●法令遵守にあたっては、規程を整備し、全教職員間において、周知徹底を図ることにより、コンプライアンスを推進する体制づくりを継続していく。
	●個人情報については、学校法人全体で取り組み、情報の保護を図っている。	●学生については、入学時のオリエンテーションでも説明するが、パソコン、携帯電話を使っての情報流出を防止するために担当が再度徹底する必要がある。
K 社会貢献 地域貢献	●学園祭において様々な企画等を試みて地域の方々に来校・参加していただくことにより、貢献している。	●従来の活動を継続し、地域活動への積極的参加をしていく。
	●学生ボランティアを中心として演奏・ピアノ調律等で社会貢献をしている。	●学生ボランティアの充実、組織づくり等、ボランティア活動を通して社会貢献をしていく。
L 国際交流	●以前より中国の南京芸術学院とは友好関係にある。	●本校へ留学を希望する外国人も増加してきており充実した受入れ体制の強化も必要である。
	●国連WAFUNIFの日本唯一の認定校となっていることから、国外での評価づけの機会を得ている。	●国連WAFUNIFの日本での唯一の認定校であり、国連やNYのパブリックスクールでの楽器のリペアインターンも実現化していく。

上記12項目に対し、委員による中部楽器技術専門学校の教育活動、学校運営の評価は、概ね良好であると思われ、高い水準を維持している。

教育課程の編成、実践的な教育等に、より一層の取組を期待するとともに学生の学力向上、時代に即した対応を継続していくことを望みます。